**1月9日　株式会社FRONTEOコミュニケーションズ　代表取締役社長　斎藤　匠　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

コアである技術を他の事業にも応用しており、収益を上げられていてすごいと思った。人工知能に対するピークが「今」ということを知り、幻滅期に入る時の対策はどうなっているのかなと思った。人工知能の導入に対し、日本はそれほど積極的ではない。市場がAI導入に対して弱腰である理由は、技術に対し、まだ充分な認知がひろがっていないことやその便利さの実際が知られていないことが理由だと感じた。また日本人の保守性も挙げられる。VUI(voice user interface)のビジネスチャンスに対しても認めると共に、そのスムーズなvoice(声)の認識性が問われる。Siriですら、言葉をしっかり判別するのは難しいからである。貴社の技術開発がそちらをしのぐものであるように、心から応援している。クリアーな言語認識が日本の技術でなされていたら、それほど素晴らしいことはない。ITにおいて日本は多少遅れを取っている。新しい技術は新興国にすぐ真似されるし、またコストも低くなる。技術力をキーに世界での日本発のサービスがひろがればいいなと思う。（経営学部　1年）

将来的に楽をするために、若いときに苦労する分、成長しやすいという理由で小規模ながらグローバルな会社に入るという考え方は自分の中にはない考え方だったので参考になりました。社内起業は普通の企業と異なることもあり、自由度は限られてしまうものの、ヒト・モノ・カネや信用は最初から多くあるというようなメリットがあるのだと分かりました。本日はありがとうございました。 (経済学部　１年)

人間の暗黙知を学習するAIは興味深かった。AIは人間の人間らしい感情をも表現できてしまうような時代になっていることに衝撃を受け若干の恐怖を感じた。世界は「人間vsAI」の構造ではなく「人間vs AIを作る人間」であるので、必要なものはAIに関する知識であると思った。（経済学部　1年）

貴重なご講演をありがとうございました。前半のFRONTEOの会社紹介では、既存の強みである人工知能エンジンの「kibit」とロボットを組み合わせてできた「kiniro」で新たな強みの活用の現場を拝聴でき、大変興味深かったです。また、後半の斎藤さんのキャリアについての考え方、特にHow,Who,What,Whereの点から自分のやりたい仕事像を描くということが印象的でした。また、子会社の社長の仕事内容や立ち位置など、なかなか聞けない話が聞けて良かったと思います。質問時間に出た、「AIが起こした事故の責任は誰が取るのか」という質問の経営者目線からの返答も興味深かったです。（経営学部　１年）

まず就職活動をする際に、ある程度しぼるためにも小さい会社で国際系の事業に携わっているなどのように条件を決めて行うことが重要だと分かった。社長になるまでの過程で社長の目に留まるように意見を交換したり厳しい環境を好んでその場で取り組んでいることがヒトとして尊敬できると思った。子会社の社長は親会社の要求と子会社の社員の意見のどちらも上手にまとめなくてはいけないのは大変だなと思う。年齢が会社の中で一番下ならなおさら大変なことだと思った。（経営学部　1年）

社内起業による子会社の社長という立場はなかなか想像しにくいが今回その張本人に話を聞くことができ、自分の中の職についての概念の一つとして幅を広げることができた。比較的若いころから社長職に就くことは非常に魅力的でビジネスの内容も子会社であっても小会社ではないと感じた。何よりも先見性をもって行動する姿を見習いたい。社会、世間が求めていることに応えることも大事だが、自問自答の答えをもとにして社会に対応していく考え方はキャリア選択に必ず生きてくると思った。(経済学部1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

自分で考えて、それを言葉にするのを恐れないこと。FRONTEO入社時のVertical Take Off Projectに取り組んだ時のお話が、かっこよく聞こえた。自分は言葉にする（声に出す）ことが苦手で、いつも聞く側に回ってしまう。それを今までは、コミュニケーション能力の無さだと思っていたけれど、考える力が足りていないのだと気付いた。先を読んでいないから、何も話が浮かばないし、意志を持てないのだ。これから2年生なるまでに思考力を高めていきたい。（経営学部　1年）

就職先を決めるときに”How”が一番だということは今までも感じていたことだったが、2番目にくるのが”Who”だというのは新しい考え方だった。一緒に仕事をしていく人を重視するという考え方を頭に置いておこうと思った。（経営学部　1年）

講演を聴いてベンチャー企業を起業するために大切なことは「文化の研究」なのではないかと思いました。何かを売り出そうとするとき、結局は消費者の存在が大きくなってくるので、消費者の行動を推測し、それがある程度正確性を帯びるためには、消費者の文化を研究し、どのような経営をするべきかを決定する必要があるのではないでしょうか。今後、このような考え方を持ち続けたいです。(経済学部 1年)

「入りたい会社を決めるのではなく、どのような仕事がしたいかを考え抜くことが大事」という言葉を忘れないようにしたいです (経済学部　経済学科　１年)

**授業スタッフの感想**

起業といっても、本当にゼロからのスタートのものもあるけれど、社内起業という起業もあり、それには今までの企業とはまた違ったやり方がなされていて、もとの企業が存在することがメリットにもデメリットにもつながるということがわかり、聞いていて新鮮なお話でした。私にとって一番印象に残ったお話は、Howを最優先に物事を考え、それを就職にも役でてるということで、これからの自分の方針として使ってこうと思い、ためになるお話でした。

就職活動に関する話はあまり聞いたことがなかったから、とても興味深かったです。「小さい」「ユニーク」など、自分がやりたいことを項目として就職先を選ぶのではなく、どういう企業がよいかについて深く考えてみようと思いました。

　今回の講演を聞き、改めて自分のキャリアについて、深く考える時間を持とうと思いました。そのためには、自分だけがもっている1次情報を大切にすると共に、社会の変化にも敏感にならなければいけないと思いました。自分にとっての将来の目的地をどんな形であれ、定めなければとも思いました。

　次回の大川氏のお話も楽しみです。ベトナムでの取り組みについて、よく聞きたいと思います。